

# 1. 留学生指導及び受入れ・派遣支援報告 (2016年4月～2017年3月)

副島 健治

バハウ・サイモン・ピーター

## 1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導だけでなく、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すなど、センターの機能と役割が拡大した意味合いを持つように位置付けられた。

本報では2016年4月～2017年3月において、日本語教育以外の部分に関わる本センターの主な業務について報告する。

## 2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生なんでも相談窓口」等と連携して対処した。相談者数は122人で、面談の件数はのべ130件であった。

130件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(42件)、日本人学生に対する指導・助言(80件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(8件)であった。海外留学相談については、センター内に「留学情報資料室」を設置して海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の留学にかかる相談を受けている。

また、相談における主な希望留学先は、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等の英語圏諸国、フィンランド、スイス、フランス、タイなどであった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：122人

(内訳) 人文学部(37人)、人間発達科学部(16人)、経済学部(18人)、理学部(14人)、工学部(25人)、理工学教育部(10人)、医学薬学教育部(2人)

## 3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

### (1)「日本事情」教育

「日本事情」の授業は、国際交流センターの日本語研修コースに位置付けられていたが、日本語研修コースは前期後期ともに不開講であったため、後期においてのみ日本語課外補講の1つの科目として開講された。本授業では、受講する留学生の他に留学生の先輩や日本人学生にもサポートに入ってもらい、合同授業を行った。この授業は、教師を含む授業参加者相互の対話型(インターアクティブ)の形態をとり、留学生自身のまなざしを通して、日本の文化と日本以外の国の文化との異なる点および類似性の両方を認識するとともに、留学生がそれを理解し、そのことを日本(富山)での学修や生活に活かしていけるようにすることが目的である。また、その授業を進める経緯の中で日本人学生のサポートもあって、留学生の日本語の運用力の向上も促進されていくという副産物も期待され一定の成果があった。

また、富山大学の学生の海外留学にかかる支援の一環として、「日本事情」受講の留学生と、海外留

学を目指して準備している日本人学生の合同授業を行ない、日本や留学生の出身国・地域の事情などについて、日本語と英語で交流・交換する授業が実現した。その成果としては、双方にとっても有意義な経験となったことである。今後もこの取り組みは、学内における1つの国際交流と異文化理解促進の活動として継続していきたい。

## (2) スタディ・エクスカーシオン

センターが主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流を目的として、近隣の文化施設等を見学するスタディ・エクスカーシオンを実施している。2016年度は、前期に2回、後期に1回実施した。

### ・前期のスタディ・エクスカーシオン（前期1回目）

#### <実施日・見学場所>

2016年5月13日（金） 天気：晴天

新湊かまぼこ夢テラス海王，海王丸パーク，  
県営渡し船，新湊大橋（あいの風プロムナード）

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	19人	
日本人学生	6人	
教職員	6人	合計：31人



2016年5月13日（金）  
（新湊かまぼこ夢テラス海王にて）

### ・前期のスタディ・エクスカーシオン（前期2回目）

#### <実施日・見学場所>

2016年7月13日（水） 天気：曇り

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	17人	
日本人学生	5人	
教職員	4人	合計：26人



2016年7月13日（水）  
（富山市民俗民芸村にて）

### ・後期のスタディ・エクスカーシオン

#### <実施日・見学場所>

2016年11月9日（水） 天気：快晴

五百羅漢・富山市民俗民芸村

移動手段：バス

#### <参加者数>

外国人留学生	10人	
日本人学生	3人	
教職員	5人	合計：18人



2016年11月9日（水）  
（富山市民俗民芸村にて）

スタディ・エクスカーシオン実施後にアンケートを実施した。アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多かった。「不満」と答えた者はゼロであった。参加学生

の満足感はいへん高くこの企画が大変好ましく受け止められていることが分かった。また「他に行きたいところ」として立山などを提案する意見があった。

また、今回のエクスカージョンでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生の混合のグループで活動するようにしたことから「小グループで行動することでより親睦を深められた」という意見があった。実施の日時については、午前の授業が終わって午後からの活動であったため時間的にタイトになってしまい、「授業の後にやるべきではない」などの改善を求める意見もあった。

### (3) ホームビジットとホームステイ

センターでは、日本語研修コースで学ぶ留学生を対象として、日本の家庭に滞在し異文化体験をさせるために、ホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施しているが、2016年度は日本語研修コースが不開講だったため対象学生がおらず実施しなかった。

### (4) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

センターの談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、大学の学生サークル「パートナーズ」（後掲）が外国人留学生と日本人学生の交流を目的として、下のような「交流会」を企画し実施した。

＜実施日時・参加者数＞

2016年6月1日（水）	15:30～17:30	Welcome Party	参加人数：28人
2016年6月29日（水）	15:30～17:30	料理交流会	参加人数：28人
2016年12月14日（水）	15:30～18:00	Year-End Party	参加人数：40人
2017年1月25日（水）	15:30～18:00	Farewell Party	参加人数：35人

## 4 関係団体との連携と協力

### (1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

平成28年度センター教員が直接参加、協力した主な国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
“G7 環境大臣会合富山会合に向けて変わりゆく地球とともに生きる”	5月14日（土）	富山大学	英語セッション 翻訳・通訳 座長
G7 環境大臣会合富山会合	5月14日（土） ～5月16日（月）	環境省、富山県、富山市	通訳・案内
2016年 第一回 ウイメンズ ウィングトヤマ 交流・学習会	5月22日（日）	富山市民国際交流協会 ウイメンズ ウィング トヤマ	講演
富山テレビ ACT クラブ賞 受賞式	6月 2日（木）	富山テレビACTクラブ	受賞
ルンビニ園児との田植え体験	6月 4日（土）	富山ライオンズクラブ	参加
遠足飛騨古川	6月 5日（日）	富山市民国際交流協会	参加
第26回世界少年野球大会富山大会	8月17日（水） ～25日（木）	[主催]（一財）世界少年野球推進財 団、（公財）日本野球連盟、富山県、 高岡市、射水市、氷見市、砺波市、 小矢部市、南砺市 [主管] 世界野球ソフトボール連盟 （WBSC）	調整対応

カンボジア国研修生との交流行事	9月1日(木)	富山県カンボジア協会	参加
パプアニューギニア理解講演会	9月6日(日)	富山県青年国際交流機構	講演
ルンビニ園児との稲刈り体験	9月25日(土)	富山ライオンズクラブ	参加
国際フェスティバル	11月13日(日)	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2017年 1月15日(日)	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「平成28年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

## (2) 関係団体等との連携

国際交流センターと関係諸団体との連携と協力の関係はたいへん重要であり、そのような意味において、必要に応じて情報交換している。下のセンターへの来訪があった。

- 2016年5月18日(水) 16:30 富山県知事政策局生涯スポーツ担当 野口貴史 主任  
同上 島谷達雄 副主幹  
※「第26回世界少年野球大会富山大会」打ち合わせ
- 2016年6月22日(水) 17:30 JICA 北陸 仁田知樹 支部長  
JICA 国際協力推進員(富山県デスク) 船木愛 推進員
- 2016年7月26日(火) 10:30 富山県富山西警察署 藤井肇警部補
- 2016年8月10日(水) 10:00 富山昭和ライオンズクラブ 砂川武司 国際協調委員長

## 5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内をセンターの談話室に掲示している。海外の大学への留学に関する情報については、談話室の書架およびセンター2階の留学情報資料室を開放し提供している。

## 6 外国からのセンター訪問

国際交流センターに以下(非公式なものを除く)のような外国からの訪問があり、意見・情報交換等を行った。

- 2016年5月17日(火) 米国, インディアナ大学-パデュー大学 フォートウェイン校より  
山田 恵美子(社会学部 准教授)および学生6名 ※ 授業見学等
- 2016年12月20日(火) オランダ, ライデン大学より  
吉岡 慶子(人文学部 地域研究学院 日本研究科 日本語教育主任)
- 2017年2月15日(水) フランス, オルレアン大学より(4名)  
Jennifer KROUBO DAGNINI(国際交流担当課長)  
Julien Prud'homme(留学生受け入れ担当)  
Marie-Astrid de Lambilly(留学生送り出し担当)  
Anne-Claire Mauny(フランス語学院短期研修プログラム担当)

## 7 オリエンテーション

### (1) 新入留学生のためのオリエンテーション

学部, 総合情報基盤センター, 国際部留学支援課, 学務部学生支援課, キャリアサポートセンター等

の協力により、全学のオリエンテーションとは別に、学部新入留学生だけではなく、大学院留学生も対象としたオリエンテーションを実施した。また、前期は正規生のためのオリエンテーションと非正規生を対象としたオリエンテーションを分けて実施したが、後期は正規生、非正規生を合同でオリエンテーションを行なった。

[前期]

#### 新入外国人留学生のためのオリエンテーション（正規生対象）

<実施日時・場所>

2016年4月4日(月) 9:00~12:00 (五福) 共通教育棟D11  
(杉谷) 看護学科研究棟11教室  
(高岡) H棟2階CALL教室

<参加者>

学部生:19人(五福18人,高岡1人)

大学院生:59人(五福13人,杉谷46人(うち2人は非正規生))

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:00~11:45

- 1) 生活上の留意事項について (国際交流センター)
  - 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて  
(総合情報基盤センター)
  - 3) 学生なんでも相談窓口について (学生支援センター)
  - 4) 就職支援について (学務部就職支援課)
  - 5) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について (学務部学生支援課)
  - 6) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について (国際部留学支援課)
  - 7) その他  
(学部ごと) 11:45~12:00 (杉谷キャンパを除く)
- 各学部からの説明

#### 新規来日留学生（非正規生）のためのオリエンテーション

2016年度の前期においては、学部、大学院各研究科・教育部の新規来日の留学生（正規生）のオリエンテーションとは別に非正規生の留学生つまり、研究生、科目等履修生、特別聴講生を対象としたオリエンテーションを実施した。このオリエンテーションには上の4月4日(月)の行なわれたオリエンテーション（正規生対象）に事情があって参加できなかった正規生も参加した。

<実施日時・場所>

2016年4月13日(水) 12:20~12:50 (五福) 共通教育棟A棟3階A32教室

<参加者>

12人(うち4名は正規生)

<オリエンテーションの主な内容>

- ・校内・学外における諸手続きについて
- ・学生生活について
- ・留意事項・危機管理について

[後期]

#### 10月入学新入外国人留学生のためのオリエンテーション

<実施日時・場所>

2016年10月19日(水) 16:30 (五福) 共通教育棟1階D11教室  
(杉谷) 看護学科研究棟11教室

<参加者>

大学院生：13人（五福3人，杉谷10人），非正規生：31人（五福31人）

<オリエンテーションの主な内容>

前期の正規生のためのオリエンテーションとほぼ同様。

## (2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために，時間割作成の支援として，学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日時・場所>

2016年4月8日(金) 17:30～19:00 共通教育棟1階C11教室

<参加者数>

新入留学生 11人，協力した先輩留学生 10人

## 8 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

2015年度においては，海外留学を目指している富山大学の学生を対象として，国際交流センター主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の促進をはかったが，その実績を踏まえ，2016年度（前期と後期）においては，水曜日3限目に教養教育のコロキアム科目（単位は出ない）の授業として「留学のための教養講座」を開講した。講師は，国際交流センターの教員が担当した。

また，2016年度の後期の人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」（コーディネータ：人間発達科学部 橋爪和夫教授）の講義を国際交流センターの教員が担当した。

講義内容は平成28年度のシラバスに詳しいが，両授業いずれも「日本（語）文化」と「留学」をキーワードにしたものであった。また，「国際交流活動論」においては，特に卒業後，初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため，昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて，日本語教育の視点から講義する部分が多かった。

受講者数および内訳は以下の通りである。ただし，コロキアムの科目の受講生数については，履修登録だけして出席しなかった学生は除き，登録せずにそのまま継続して参加した学生を含む。

コロキアム「留学のための教養講座」（前期）16名（うち1名は未登録）

内訳：人発(3)，経済(1)，人文(9)，理(1)，工(2)

（後期）8名

内訳：経済(2)，人文(1)，理(5)

「国際交流活動論」（後期）7名

内訳：人発(7)

## 9 その他

### (1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体(名称「Partners」)の活動への助言を行った。

### (2) 平成28度富山県留学生等交流推進会議総会・「留学生との座談会」への協力

下記のように，平成28度富山県留学生等交流推進会議総会にセンターの教員が参加し，あわせて行なわれる「留学生との座談会」にかかる留学生によるパネルディスカッションをコーディネートし，参加留学生の指導を行なった。

日時：2016年6月22日(水) 13:30～16:00（パネルディスカッションは15:00～16:00）

場所：富山大学五福キャンパス事務局5階大会議室

テーマ：「外国人留学生から見た富山県の留学支援と県内企業への就職」

参加留学生：5人

(留学生内訳)	富山大学 大学院 理工学教育部 卒業	(ベトナム出身・男性)
	富山大学 大学院 理工学教育部 卒業	(中国出身・男性)
	富山県立大学大学院工学研究科 在学	県費留学生 (インドネシア出身・男性)
	富山大学 大学院 医学薬学教育部 在学	県費留学生 (タイ出身・女性)
	富山大学 大学院 理工学教育部 在学	県費留学生 (インドネシア出身・男性)

### (3) 国際交流センター教員の学外の賞の受賞

国際交流，異文化理解，地域交流にかかる種々の活動が認められ，富山テレビ ACT クラブ（事務局は富山テレビ放送内に置かれる）より富山県内で活躍している社会人に贈られる第17回（2016年）「富山テレビ ACT クラブ賞」を国際交流センターのバハウ教授が受賞した。受賞の様子は富山テレビ放送「BBT チャンネル 8」にて放送された（放送日時：5月25日（水）18：15～18：55）。

## 10 おわりに

国際交流センターは，その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして，学外の諸団体，地域の方々の温かい理解と協力，多大な支援を頂いている。そのことについて，まずはこの誌面を借りて感謝の意を表したい。

また，冒頭に述べたが，1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは発展的に解消し，2013年10月に国際交流センターと名称を変え，従来の外国人留学生に対する日本語・日本事情教育，修学上および生活上の指導助言などを行うという役割だけでなく，さらには外国人留学生と日本人学生との交流，地域との交流，富山大学の学生の海外への送り出しなど，その課される役割は大きく拡大した意味合いを持つように位置付けられた。センターに課せられたミッションはたいへん重い。それと同時に，その役割を果たすための課題も浮き彫りとなって来ている。国際交流センターは何をするように期待されており，出来ることはどのようなことかを再考する時期であろう。そして，限られた人材と予算等と向き合いながら，そのことを踏まえた上で，全学的にセンターの業務についての共通理解をはかり，センターとして一層の努力をしていくことが求められていると言える。